

# ふりがえりなガラ - 2023

アートコミュニケーション事業の活動をピックアップして報告します!



## 基礎ゼミ



講師の  
青木将幸さん

詳細は  
こちら!



### 会議が変われば社会が変わる (2023年7月1日開催)

家族会議から国際会議まで幅広い会議の場でファシリテーターとして活躍している青木将幸さんにご登壇いただき、チームで活動を進めていくとき、一人ひとりが主体的に関わる直接的な話し合いが重要なことや、ミーティングの理想的なスタイルや具体的な手法を実践的に学びました。今回のゼミでは、ミーティングを始める前のウォーミングアップから始まり、「問い」を考える課題ではアートコミュニケーションならではの問いから、相手のことをさらに深く知る問いまで、様々な問いを考えました。今後「~ながラー」の活動でミーティングや対話を繰り返す中でアイデアが生まれやすい関係をみんなで意識していける、そう思えるゼミになりました。

## 実践ゼミ



広報チームの  
「~ながラー」

詳細は  
こちら!



### 地域資源と「~ながラー」 (2023年8月~2024年1月開催、全7回)

基礎ゼミで学んだアートコミュニケーションとしての心構えを意識しつつ、多様な背景をもつ来館者に美術館を楽しんでもらうための手法を、実践を交えながら学ぶゼミでは、岐阜市を中心に展開されるアートプロジェクト「こよみのよぶね」を通して、「地域資源」について想いを巡らせました。日比野館長から「こよみのよぶね」について話を聞いた「~ながラー」は「干支行灯制作チーム」「こよみつけ!!場づくりチーム」「広報チーム」に分かれ、時にはチームの垣根を越え、連携しながら活動を進めました。活動した「~ながラー」は、「~ながラー」が実際にコミュニケーションしながら体験を共有することで、「~ながラー」の魅力も「こよみのよぶね」も両方知ってもらおうような活動をしていけたらいいと思います。」とふりがえりました。

## この舟のろう方式



林 武史さんの  
《立つ人一月見台》を  
五感を使って鑑賞

詳細は  
こちら!



### 《立つ人一月見台》五感を使って鑑賞しよう (Ishi丸) (2023年11月12日開催)

2022年に実施した月見台丸の「林武史さんと月見台を楽しむ会」。その時、参加した「~ながラー」はみんな林武史さんの作品の魅力と作者の人格に惹かれていました。2023年の「林 武史 《石間》安藤基金コレクションから」で《石間》が展示されると知った「~ながラー」は《立つ人一月見台》と《石間》を多くの人に楽しんでもらいたい、参加者と舟のメンバーが感じたことを自由に表現することを楽しむ、そういう特別な時間を共有できたらいいなという思いからイベントを企画・実施しました。参加者の方と共に《石間》に触る・乗る体験をしたり、五感を使って《石間》と《立つ人一月見台》作品の比較をしたりしました。「~ながラー」は「参加者のみなさんが触れた時の反応や感想はIshi丸メンバーの私たちにとって大変嬉しく、これまでの何度も重ねてきたミーティング等の道のりを思い出し報われたひと時でした。」と感慨深く語りました。

## 他館との協同



福井県立美術館  
ボランティアと「~ながラー」

詳細は  
こちら!



### 福井県立美術館ボランティアと楽しむアートツアー (2023年11月23日実施開催)

2021年に福井県と岐阜県の連携事業で福井県立美術館で開催された「ももきねの美 清流の旅 ~日本画の巨匠と陶芸の人間国宝~ 岐阜県美術館名品展」の関連イベントとして、アートコミュニケーション「~ながラー」が県外遠征し、日比野克彦アートコミュニケーション作品《Such Such Such》を福井県立美術館ボランティアと実施しました。今回のアートツアーでは福井県立美術館のボランティアが岐阜県美術館に来館し、「~ながラー」と協同して「越山若水が育んだ美-福井県立美術館・若狭歴史博物館名品展-」の展示作品を対象にイベントを行いました。遠方に住む福井県立美術館ボランティアと「~ながラー」が来館者に《Such Such Such》を楽しんでもらうために複数回のオンラインミーティングを重ね、準備を進めました。当日も福井県立美術館ボランティアと「~ながラー」が協力し、ファシリテーターやタイムキーパーなどを担当しながら運営を進めました。他館で活動するボランティアと共にイベントを運営していく姿は、3年の任期を終えた後も「湊カラー」として、社会とアートをつなぐ担い手になる。そんな姿を想像させるようでもありました。

※「湊カラー」とは、3年間の「~ながラー」の活動を生かしながら、任期満了後の日常社会の中でアートを通して多様な人々と交流することを期待し、日比野館長が命名したアートコミュニケーションのことです。



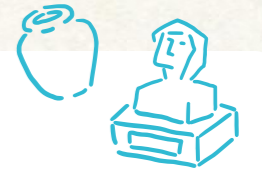
アートを通して生まれるコミュニケーションを大切に、  
岐阜に生きる人やテーマと結びつきながら、  
美術館を拠点に人と人、人と作品、人と文化をつないでいく存在です。  
多様なバックグラウンドを持つ「~ながラー」が、新たな価値観や関係を社会にひろげていきます。

愛称「~ながラー」には、「~しながら」と、  
岐阜に流れる「長良」川の二つの意味が込められています。



## 岐阜県美術館からのメッセージ

岐阜県美術館の基本理念は「美とふれあい、美と会話し、美を楽しむ」です。美術館を、作品を鑑賞するだけでなく、地域性を発信し人々の交流を通して、多彩なかたちでアートを体験する場として、美の楽しみ方を生み出していきます。



## 館長のメッセージ

自分のペースでちゃんと関係性をとりながら、  
自分のこととして引き受けながら、相手のことを考えながら。

コミュニケーションというのは当然一人ではできない。  
相手があつてのこと。二人の間で「ながら」が生まれる。

一人よがりにならずに、  
もう一つの存在として、対話しながら、関係性をとりながら。

岐阜県美術館長 日比野 克彦



お問い合わせ



〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22  
Tel/058-271-1314 Fax/058-271-1315  
<https://kenbi.pref.gifu.lg.jp/>



ぜひご覧ください!  
「~ながラー」の活動公開中!

~ながラーが《この舟のろう方式》で企画・制作した、  
オンラインで楽しめるコンテンツを公開中!  
美術館に対する思いや工夫が込められています。